

7 眼の疾患

日本鍼灸エビデンスレポート (Evidence Reports of Japanese Acupuncture and Moxibustion: EJAM)
東アジア伝統医学の有効性・安全性・経済性システムティック・レビュー (TEAM-SR) プロジェクト

文献

福野梓、鶴浩幸、片岡佳介、ほか. 鍼刺激による屈折変化非依存性の視力向上効果 全日本鍼灸学会雑誌 2008; 58(2): 195-202. 医中誌 web ID:2008225957

1. 目的

水晶体屈折度変化のない被験者に対する鍼刺激による視力向上効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (クロスオーバー) (RCT-cross over)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属病院眼科、京都、日本

4. 参加者

2005年1月から12月の間に水晶体超音波乳化吸引および眼内レンズ挿入術が施行された症例のうち、全身状態に問題がなく、白内障以外に眼疾患を有しない症例から無作為に選択された平均年齢73.0±1.4歳の30名30眼(男性16名、女性14名)。

5. 介入

Arm 1: 試験群 (30名)。ステンレスディスプレイザブル鍼 (0.16×30mm、セイリン社製) を、安静仰臥位で両側の合谷 (LI4)、太陽 (Ex-HN5)、上睛明穴 (WHO 表記なし) に10分間の置鍼術。

Arm 2: コントロール群 (30名)。Arm 1と同じ鍼で、両側の合谷、太陽の外方1cmおよび上睛明上方1cmに10分間の置鍼術。

6. 主なアウトカム評価項目

鍼刺激前後における裸眼視力と矯正視力

7. 主な結果

Arm 1とArm 2それぞれの群内比較で、有意な視力向上がみられたが、群間には裸眼視力変化、矯正視力変化ともに有意差は認められなかった。また、薬物による散瞳下では鍼刺激による視力向上効果は認められなかった。

8. 結論

鍼刺激により屈折調節不可能な高齢者においても視力向上が生じる。

9. 鍼灸学的言及

今回の実験ではシャム群においても針刺激群と同様の結果を得た。それは合谷穴、太陽穴、上睛明穴は、経験的に同定された部位であり、今回の結果は三叉神経領域への刺鍼によって縮瞳反射が惹起されたことによるものと考えられる。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

鍼治療による視力向上は機序が不明であり、その機序を解明する目的で水晶体屈折度変化のない白内障手術を行ったものを対象とした興味深い論文である。本研究は平行同時群間比較ではなく、WHO 鍼の臨床研究方法論では結果の解釈が困難なため推奨されていない cross over デザインを用いた研究で、このデザイン特有の持ち越し効果と時期効果の検討がなされていない。また、独立した2つの患者群の比較ではなく、1人の被験者の片眼に介入を行い、反対の眼を対照として扱っている。つまり症例数は見かけ上60例(眼)だが、被験者の人数としては30名である。このように被験者はランダム抽出サンプルでかつ、一個体一つという測定の独立性が成立していないと統計的検定は出来ない(方法は他の疾患の研究にも利用されている)ので、読者は注意。また対照としての介入(シャム刺激)も置鍼をしているので、その生理活性があることも予想される。著者は考察で、鍼刺激による視力向上の機序はピンホール効果によるものとしている。しかし、そのように結論付けるには十分ではない。今後研究デザインや評価対象をブラッシュアップし、研究を継続することで本質的な眼科疾患への鍼灸治療の応用が期待される。

12. Abstractor

金子泰久 2010.9.15